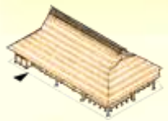
「炉端の会」１１月のコラム

よ・そ

小金井公園にある江戸東京たてもの園に行った。ボランティア「ひじろ会」に団体ガイドをお願いできた。担当の方はとても博識で熱心で、自作の資料ファイルの写真などを見せながら、私達を飽きさせなかった。面白かった。

日本全国に川崎の民家園（以下㋮）と類似の野外博物館がある。江戸時代の民家とは限らないが、どの館も優れた建物を集め独自性がある。訪ねると㋮とここは違う、これは楽しい等と思える点があって面白い。来館者が手軽に体験できる場を多種揃えている所、馬や鶏を民家内外で飼っている所、ボランティアが警察官や農民の格好をしている所、馬車や電車が敷地内を走っている所、にしん御殿、茅壁の民家・・様々である。三溪園、明治村、日本民家集落博物館（大阪）は全国の建物を比較できる。北海道開拓村（札幌）、みちのく民俗村（北上）、福島市民家園、奈良県立民俗博などは、その地方の民家を集めていて民俗も含めその地方にどっぷり浸れる（詳しくは㋮のＨＰ「リンク集」参照）。

地方に行く時は時間を余分に取って、これらの施設や重伝建（重要伝統的建造物群保存地区～大内宿など）、五箇山・白川郷、点在する重文民家＊を訪ねたい。見れば見るほど建物の持つ魅力にハマる、謎が深まる、知りたくなる。㋮に目を戻せばさらに理解が深まり愛着が湧く。因みに私のおすすめは、四国村（高松市、配置絶妙で景色◎、砂糖しめ小屋など多様）、箱木家住宅（神戸市、現存民家で最古？）。これから見たいのは吉村家（大阪）、今井町（奈良）、北方文化博物館（新潟）、九州の民家、韓国民俗村、スカンセンなど。出かけなくともネットや図書で楽しむ方法もある（㋮原家内の炉端文庫で閲覧可。）。

＊重文民家は、現役の住居で公開していない場合もある。当たり前だが重伝建なども見せていただく時は先方のご都合とプライバシーには十分配慮しよう。

うふふとにんまりする　Ｋ（日曜班）